

母親学級における精神心理面及び栄養面に関する 指導方針に関する研究

(3) 資料分析・実験と手引書の作成

日本総合愛育研究所

高橋悦二郎 高橋種昭 堀口貞夫

武藤静子 千賀悠子 加藤忠明

望月武子 権平俊子 山本清恵

水野清子 萩原英敏 湯川礼子

国立公衆衛生院

高野 陽

東京都足立高等保育学院

須永 進

1. はじめに

今年度の研究は、前々年から引続いて行ってきた、母親学級の指導方針に関する研究の、総括となるものである。前年までの研究は、全国で幅広く行なわれている、種々の母親学級の実態を明らかにする事を通じて、今後の母親のあるべき姿なり、内容について考察を加えたものであった。

今年度の研究は、調査を通じて得られた資料を、更にくわしく分析すると共に、実験的に異なるタイプの学級を開設し、その結果について検討を加え、母親学級の今後の在り方を考案し、母親学級の手引書の作成を試みたものである。

今年度の研究は、次の4つの種類のものからなっている。

- その1. 質問紙調査の分析
- その2. 資料分析
- その3. 実験的な試み
- その4. 母親学級の手引書の作成

2. 質問紙調査の分析

(1) 研究方法

昭和59年度と同じ。即ち、調査地域は主として東京・神奈川・青森の3カ所の他、少数では

あるが9県にわたっている。

対象は保育園児、幼稚園児をもつ母親及び保健所の健診に来所した乳幼児をもつ母親949名で、この中、乳幼児を対象とした母親学級（以下学級と略称）に参加したことのある者385名、参加したことのない者564名である。

調査内容は育児に対する自信の有無及び児の生活や食事に関する心配の有無、学級の受講場所やそのテーマ、問題の解決状況やその効果、学級に対する不満や実生活とのギャップ、今後の希望など10項目からなっている。

(2) 調査結果

(1) 母親の育児における問題点と解決状況

育児に対する自信の有無と児の生活及び食事上の問題をみると、自信がややない又はない者の約85%は児の生活や食事の上で何らかの心配をもっており、育児に自信がある者に比べその割合は有意に高かった ($p < 0.001$)。育児に自信がない場合にはその57%が栄養や食事、生活や育児に心配をもっており、自信がある者に比べてその割合は高かった ($p < 0.05$)。

児の生活や食事に心配のある者はない者に比べ、学級で解決した割合は有意に高かった ($p < 0.05$)。発育・発達、病気、栄養・食事、生活・育児の領域における問題の解決状況をみると、

発育・発達に関する心配があった者の63%が、栄養・食事に関しては72%が、生活・育児に関しては60%の者が解決されていた。一方、病気に関する心配をもっていた者は、病気に関することよりも栄養・食事、発育発達に関する問題解決の割合が高く、病児をもった母親にはこれらの領域を含めた指導が多く望まれる。生活・育児に心配があった者は栄養・食事に関する問題解決の割合が高く、この領域は栄養・食事を含めた広範囲にわたるためであろう。

(ロ) 学級を受けた場所とその効果

6種の受講場所における学級の効果を表1に示す。保健所で学級を受けた者に効果なしとする者の割合が幾分高かったが、いずれの場所においても大部分の者に学級の効果がみられた。保健所、公民館で受講した者では、母親同志が話し合えたこと、不安が解消された割合が高く、病院では育て方と母親同志の話し合いが、幼稚園では母親同志の話し合い、子どもの気持が理解できたこと、保育所では母親同志の話し合いをあげる者の割合が多かった。学級を受講して育児に自信がついた者は6~20%程度であった。受講内容に対する不満の有無やその内容には、受講場所による明らかな差異は認められなかった。

(ハ) 学級におけるテーマと諸条件との関係

● テーマと受講場所について

8つのテーマと受講場所との関連づけを表2に示す。問題行動に関しては他のテーマに比べ保育所で受講する割合が高かったが、それ以外のテーマでは、対象の約2/3が保健所で受講していた。病院で受講した65名中、61名は栄養に関する指導を受け、幼稚園で受講した49名中、41名、保育所で受講した78名中、62名は生活習慣・しつけについての指導を受けており、受講場所によりテーマの内容に相違がみられた。学級の開催場所として特に優劣はなく、それぞれの場所での特徴を生かした指導が望まれる。

● テーマと問題解決の有無

各テーマ毎に解決状況を見ると、いずれのテーマも60~70%の者は問題が解決されており、現在の学級でその成果は一応認められよう。一

方、解決した問題ごとに受講したテーマを分析すると、病気に関して解決した21名中、11名は病気と予防に関するテーマを、19名は栄養と食事を、18名が身体発育に関するテーマを受講していた。栄養・食事に関して解決した101名中、85名はこのテーマを受講し、57名が生活習慣・しつけを、56名が身体発育について、また、生活・育児について解決した71名中、52名がこのテーマを、53名が栄養・食事に関するテーマを受講していた。それゆえ、病気、栄養・食事、生活・育児に関する問題を解決するためには、上述の領域におけるテーマについての指導が望まれる。

● テーマと受講効果及び効果の内容

テーマ別に学級の効果をみると、いずれのテーマも95%前後の者に効果が認められた(表3)。効果の内容をみると、いずれのテーマにおいても母親同志が話し合えたので役立った者が約半数を占めており、母親学級の運営上、母親同志が話し合える時間帯や雰囲気を作ることが必要であろう。問題行動、事故防止・安全教育、遊びのテーマでは子どもの気持がわかったとする母親が多く、それらがテーマの場合には子どもの気持を理解させることを中心に指導することが望ましい。

● テーマと学級に対する不満及び実生活とのギャップについて

学級に対する不満をテーマ別にみると、テーマ間に大差はみられなかった。いずれのテーマにおいても約40%の者は時間の短長の問題をあげており、次に内容に対する不満の割合が高かった。

一方、いずれのテーマにおいても実生活と教えられたこととの間にギャップありとした者が約半数から2/3にみられた。中でも問題行動及び病気と予防に関してはギャップがあった者の割合が幾分高かった。いずれのテーマにおいても2/3が実行しにくいとしており、また、20~30%の者は自分の子どもに当てはまらないなど、現実にそぐわないことを指摘していた(表4)。

● テーマに対する希望

テーマ毎に学級に対する希望をみると、身体

発育、栄養・食事をテーマにする場合には実際に役立つことを、それ以外のテーマの場合には親としての心構えを希望する者が多かった。特に、問題行動についてはこの比率が高かった(表5)。

一方、学級の学習形式に対する希望をみると、各テーマとも話し合い形式を望む者が多かったが、中でもテーマが問題行動である場合には、26名中、19名が話し合いを希望していた。

(二) 育児の背景と受講効果及び希望

● 受講効果

受講して効果があった割合は全体の94%であり、育児に対する自信の有無、児の生活や食事に関する心配の有無による差はなかった。しかし、効果の内容ではグループ間に差があって、育児に自信のないものほど不安が解消した割合が高くなっており、自信があるものでは自信がついた割合が高く、いずれも有意差がみられた。

当然のことながら、受講して解決した問題があったものでは全員が効果があったと回答していた。効果の内容は、不安が解消した、子どもの気持ちがわかった、の割合が高く、解決した問題の領域別にみると、病気に関するものでは育て方がわかった、生活・育児に関するものでは子どもの気持ちがわかった、という割合が高かった。(表6)

● 不 満

受講しての不満は、児の生活・食事に関する心配の有無と関連があり、心配があったものの方に不満の割合が有意に高かった($p < 0.01$)。不満の内容としては、時間が短い又は長い、会場が遠い、自分の子どもにあてはまらない、の割合がいずれも高く、心配のなかったものでは、内容がつまらないというものが多かった。

受講効果がなかったものでは不満が強くみられ、内容がつまらない、自分の子どもにあてはまらない、が多く挙げられていた。また、教えてもらいたいこととして、すぐ役に立つこと、自分の子どもの個々の問題、を望むものが多く、学習形式では、話し合い形式、実習的指導を多く望んでいた。受講効果がなかったものは22名で受講者の5.8%にすぎないが、学級運営上の

改善すべき点を指摘しているものと考えられる。

さらに、実生活と受講内容とにギャップがあるという割合は、育児に自信がないもの、児の生活や食事に関する心配があるものの方に有意に高く($p < 0.005$)60~75%を占めていた。ギャップの内容は、育児に対する自信の有無、心配がある問題領域による差はなく、どの場合でも理屈はわかるが実行しにくいのが最も多く、次いで時間と余裕がないとできないであった。

● 学級に対する希望

育児に対する自信の有無、児の生活や食事に関する心配の有無にかかわらず、すぐ役に立つこと、親としての心構え、子どもを理解するための基礎的知識、自分の子どもの個々の問題、の順に希望されていたが、育児に自信のないものや心配のあったものでは、自分の子どもの個々の問題を望む割合がやや高くなっていった。

また、受講して解決した問題があるものでは、解決した問題がないものに比べ、親としての心構えを望む割合が有意に高く、解決した問題の領域別にみると、発育・発達に関しては子どもを理解するための基礎的知識を、病気、生活・育児に関しては親としての心構えを望む割合が高かった。(表7)

受講して不満があったものでは自分の子どもの個々の問題を、不満のないものは親としての心構えを望んでおり、母親のおかれた状況や育児の背景により希望する内容には差がみられた。

● 小 括

母親学級を受講した94%が効果ありとしており、児の生活や食事に関して心配をもっていたものの60%が解決した問題があるとしていた。とくに、育児に自信がないもの、心配があったものでは、不安が解消され、子どもの気持ちがわかったということなどからみて、現在実施されている学級の成果は評価できる。

しかし、反面で学級に参加して不満があったものが26%、実生活と受講内容との間にギャップがあったものが57%を占めており、不満やギャップは育児に自信がないもの、子どもに心配があったものの方にその割合が高いことからみても、学級運営を改善する必要性は強い。理屈

はわかるが実行しにくい、時間と余裕がないとできない、内容つまらないなどは、従来の教育内容が現実の親子の生活やニーズから遊離している点を指摘しているものと考えられる。

ギャップを埋め、不満を軽減するためには、時間と余裕のない母親の生活に即して、すぐ役に立つよう、より具体的な、実行可能な内容を吟味しなければならない。また、学級運営には話し合いや学習的指導をとり入れて、親自身が主体的なかかわりをもって学習に参加できるように考慮することが重要である。

一方、受講効果の1位に母親同士が話し合えたが挙げられていることからみても、親同士のグループづくりや話し合いの機会づくりの努力を積極的に進めることが望ましい。

(ホ) 学級参加者と不参加者の比較

学級参加の有無と育児に対する自信の有無との関連づけを試みた(表8)。両群とも育児にやや自信がない又は自信がないとする者は約70%を占めていたが、育児に対する自信の有無は2群間に全く差異はみられなかった。

学級参加の有無と児の生活及び食生活上の問題の有無についてみると、当然のことながら育児

に自信のない者にこれらに関する問題をもつ者の割合がより高かった。しかし、学級参加者と不参加者との間に有意差は認められなかった。さらに、2群間の問題領域を育児に自信がややない及びない場合について比較すると、両群とも栄養・食事、生活・育児に関する問題をもっている者が約半数を占め、特に育児に自信なしとする者では、学級参加者は不参加者に比べ、生活・育児の問題をもつ者の割合が高かった。

(ハ) 学級不参加者について

学級不参加者について、対象を児の生活や食生活上の問題のある者とない者に分け、母親の職業、学歴、年齢、子どもの数及び祖父母の同居などについての比較を行った(表9)。中でも、母親の学歴が高い程、問題ありとする者の割合が高く、問題なしとする者には祖母が同居している割合が高かった。

学級を欠席した理由をみると、児の生活や食生活上に問題がある場合も、ない場合でも約半数の者はその理由に就労をあげていたが、問題なしの者に比べ、ある者には学級の存在を知らなかったという割合が高かった(表10)。

表1 母親学級の受講場所とその効果

() %

	効果		育て方がわかった	子どもの気持がわかった	不安が解消した	自信がついた	母親同士が話し合えた	その他
	なし	あり						
保健所	15 (6.4)	219 (93.6)	67 (30.6)	43 (19.6)	70 (32.0)	35 (16.0)	87 (39.7)	0
公民館	3 (4.3)	66 (95.7)	19 (28.8)	17 (25.8)	30 (45.5)	9 (13.6)	31 (47.0)	1 (1.6)
集会所	0	19(100.0)	6 (31.6)	7 (36.8)	2 (10.5)	4 (21.1)	8 (42.1)	1 (5.3)
病院	2 (3.1)	63 (96.9)	26 (41.3)	11 (17.5)	18 (28.6)	12 (19.0)	25 (39.7)	3 (4.8)
幼稚園	1 (2.0)	49 (98.0)	9 (18.4)	22 (44.9)	13 (26.5)	3 (6.1)	22 (44.9)	1 (2.0)
保育所	2 (2.5)	77 (97.5)	26 (33.8)	24 (31.2)	24 (31.2)	13 (16.9)	47 (61.0)	5 (6.5)
その他	1 (3.8)	25 (96.2)	9 (36.0)	9 (36.0)	11 (44.0)	8 (32.0)	11 (44.0)	2 (8.0)

表2 母親学級のテーマと受講場所

() %

受講者数	保健所 234	公民館 68	集会所 19	病院 65	幼稚園 49	保育所 78	他 26
身体発育	123 (70.3)	38 (21.7)	7 (4.0)	38 (21.7)	12 (6.9)	27 (15.4)	12 (6.9)
精神・言語	73 (68.2)	25 (23.4)	3 (2.8)	21 (19.6)	15 (14.0)	28 (26.2)	8 (7.5)
栄養・食事	197 (70.1)	49 (17.4)	14 (5.0)	61 (21.7)	29 (10.3)	48 (17.1)	20 (7.1)
生活習慣	126 (61.2)	35 (17.0)	13 (6.3)	39 (18.9)	41 (19.9)	62 (30.1)	12 (5.8)
遊び	39 (62.9)	10 (16.1)	4 (6.5)	14 (22.6)	10 (16.1)	22 (35.5)	6 (9.7)
問題行動	15 (51.7)	5 (17.2)	2 (6.9)	5 (17.2)	3 (10.3)	16 (55.2)	4 (13.8)
病気と予防	76 (67.3)	20 (17.7)	6 (5.3)	27 (23.9)	25 (22.1)	26 (23.0)	7 (6.2)
事故防止・教育	31 (66.0)	5 (10.6)	4 (8.5)	12 (25.5)	7 (14.9)	13 (27.7)	7 (14.9)
その他	5 (71.4)	1 (14.3)	0	1 (14.3)	1 (14.3)	1 (14.3)	1 (14.3)

表3 母親学級のテーマと受講効果

() %

	効 果		育て方が わかった	子どもの気持 がわかった	不安が解消 した	自信がついた	母親同志が 話し合えた	そ の 他
	な し	あ り						
身体 発 育	8 (4.5)	168 (95.5)	60 (35.7)	34 (20.2)	58 (34.5)	33 (19.6)	69 (41.1)	9 (5.4)
精神・言語	1 (0.9)	107 (99.1)	36 (33.6)	32 (29.9)	38 (35.5)	18 (16.8)	51 (47.7)	9 (8.4)
栄養・食事	17 (6.1)	263 (93.9)	86 (32.7)	48 (18.3)	85 (32.3)	46 (17.5)	110 (41.8)	13 (4.9)
生活習慣・ しつけ	5 (2.4)	201 (97.6)	57 (28.4)	66 (32.8)	60 (29.9)	31 (15.4)	94 (46.8)	8 (3.9)
遊 び	1 (1.6)	61 (98.4)	21 (34.4)	24 (39.3)	20 (32.8)	15 (24.6)	34 (55.7)	4 (6.6)
問題行動	1 (3.4)	28 (96.6)	11 (39.3)	15 (53.6)	12 (42.9)	9 (32.1)	16 (57.1)	4 (14.3)
病気と予防	3 (2.7)	110 (97.3)	35 (31.8)	30 (27.3)	38 (34.5)	18 (16.4)	53 (48.2)	5 (4.5)
事故防止と 安全教育	2 (4.3)	45 (95.7)	9 (20.0)	19 (42.2)	16 (35.6)	14 (31.1)	25 (55.6)	4 (8.9)
そ の 他	0	7(100.0)	2 (28.6)	1 (14.3)	4 (57.1)	1 (14.3)	1 (14.3)	0

表4 各テーマと教えられたこととの間のギャップについて

() %

	ギャップ		時間と余裕 がないと 出来ない	経済的に無理	自分の子に当 てはまらない	自分のやり方 とかけ離 れている	理屈はわか るが実行 しにくい	そ の 他
	な し	あ り						
身体 発 育	73 (42.9)	97 (57.1)	38 (39.2)	6 (6.2)	22 (22.7)	7 (7.2)	59 (60.8)	7 (7.2)
精神・言語	37 (35.9)	66 (64.1)	25 (37.9)	2 (3.0)	16 (24.2)	4 (6.1)	45 (68.2)	5 (7.6)
栄養・食事	107 (40.2)	159 (59.8)	68 (42.8)	12 (7.5)	22 (13.8)	10 (6.3)	104 (65.4)	8 (5.0)
生活習慣・ しつけ	71 (36.8)	122 (63.2)	52 (42.6)	10 (8.2)	13 (10.7)	7 (5.7)	80 (65.6)	9 (7.4)
遊 び	24 (38.7)	38 (61.3)	16 (42.1)	2 (5.3)	4 (10.5)	4 (10.5)	26 (68.4)	6 (15.8)
問題行動	8 (29.6)	19 (70.4)	9 (47.4)	2 (10.5)	4 (21.1)	3 (15.8)	14 (73.7)	1 (5.2)
病気と予防	34 (31.5)	74 (68.5)	24 (32.4)	6 (8.1)	14 (18.9)	5 (6.8)	51 (68.9)	4 (5.4)
事故防止と 安全教育	16 (35.6)	29 (64.4)	14 (48.3)	3 (10.3)	7 (24.1)	4 (13.8)	19 (65.5)	1 (3.4)
そ の 他	3 (50.0)	3 (50.0)	2 (66.7)	0	0	0	1 (33.3)	0

表5 各テーマに対する今後の希望

() %

	受講者数	実際にすぐ 役立つこと	子どもを理解する ための基礎知識	親としての 心 構 え	自分の子ども 個々の問題	そ の 他
身 体 発 育	154	70 (45.5)	61 (39.6)	59 (38.3)	37 (24.0)	0
精 神 ・ 言 語	97	43 (44.3)	38 (39.2)	49 (50.5)	30 (30.9)	2 (2.1)
栄 養 ・ 食 事	245	114 (46.5)	85 (34.7)	98 (40.0)	65 (26.5)	1 (0.4)
生 活 習 慣 ・ し つ け	174	67 (38.5)	62 (35.6)	86 (49.4)	45 (25.9)	0
遊 び	54	24 (44.4)	21 (38.9)	30 (55.6)	14 (25.9)	0
問 題 行 動	23	9 (39.1)	12 (52.2)	14 (60.9)	5 (21.7)	0
病 気 と 予 防	100	44 (44.0)	37 (37.0)	54 (54.0)	23 (23.0)	1 (1.0)
事 故 防 止 と 安 全 教 育	41	16 (39.0)	16 (39.0)	20 (48.8)	10 (24.1)	0
そ の 他	5	4 (80.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0	0

表6 育児に対する自信の有無及び解決した問題の有無と受講効果

() %

	効果なし	効果あり	育て方が わかった	子どもの気持 がわかった	不安が解消 した	自信がついた	母親同志 話し合えた	そ の 他
自 信 あり	6 (5.5)	104 (94.5)	29 (26.6)	23 (21.1)	19 (17.4)	28 ^{***} (25.7)	42 (38.5)	5 (4.6)
やや自信なし	13 (6.0)	205 (94.0)	67 (32.7)	46 (22.4)	71 (34.6)	23 (11.2)	91 (44.4)	10 (4.9)
自 信 なし	1 (2.3)	43 (97.7)	11 (25.6)	10 (23.3)	19 ^{***} (44.2)	2 (4.2)	13 (30.2)	2 (4.7)
解決した問題有	0	192(100.0)	59 (30.7)	51 [*] (26.6)	72 ^{**} (37.5)	32 (16.7)	79 (41.1)	8 (4.2)
” なし	21 (15.1)	118 (84.9)	37 (31.4)	19 (16.1)	27 (22.9)	11 (9.3)	50 (42.4)	8 (6.8)

表7 「解決した問題の有無」及び「受講しての不満」と「教えてもらいたい内容」 () %

希望内容	すぐ役に立つこと	基礎的知識	親としての心構え	自分の子の個々の問題	その他
解決した問題あり	54 (45.4)	34 (28.6)	34 (28.6)	36 (30.3)	0
” なし	72 (42.6)	62 (36.7)	79 (46.7)	39 (23.1)	1 (0.6)
発育・発達	23 (39.7)	30 ^{***} (51.7)	26 (44.8)	14 (24.1)	1 (1.7)
病 気	7 (36.8)	8 (42.1)	13 [*] (68.4)	8 (42.1)	0
栄養・食事	43 (46.7)	35 (38.0)	41 (44.6)	27 (29.3)	1 (1.1)
生活・育児	27 (44.3)	26 (42.6)	42 ^{***} (68.9)	15 (24.6)	1 (1.6)
受講して不満あり	40 (45.5)	34 (38.6)	27 (30.7)	35 (39.8) ^{**}	0
” 不満なし	100 (43.7)	79 (34.5)	97 [*] (42.4)	45 (19.7)	2 (0.9)

表8 母親学級参加の有無と育児に対する自信の有無 () %

	学級参加者	学級不参加者
育児に自信がある	111 (29.6)	148 (27.1)
やや自信がない	219 (58.4)	332 (60.8)
自信がない	45 (12.0)	66 (12.1)

表10 育児上の問題の有無と母親学級不参加の理由 () %

	育児上に問題あり	育児上に問題なし
仕事があるため	209 (49.8)	65 (51.6)
テレビ・本で情報が得られる	38 (9.0)	17 (13.4)
子どもがいるから	41 (9.8)	13 (10.3)
会場が遠い	36 (8.6)	8 (6.3)
母親学級を知らなかった	64 (15.2)	10 (7.9)
その他	43 (10.2)	15 (11.9)
無 回 答	36 (8.6)	11 (8.7)

表9 学級不参加者の育児上の問題の有無と諸条件との関係 () %

		育児上に問題あり	育児上に問題なし
母親の職業	有	306 (77.1)	88 (76.5)
	無	91 (22.9)	27 (23.5)
母親の学歴	中 学	35 (8.6)	23 (19.3)
	高 校	217 (53.2)	63 (52.9)
	短大以上	156 (38.2)	33 (27.7)
母親の年齢	20 歳代	103 (25.0)	33 (27.1)
	30 ”	297 (72.1)	76 (62.3)
	40 ”	12 (2.9)	12 (9.8)
	50 ”	0	1 (0.8)
子どもの数	1 人	117 (28.4)	37 (29.4)
	2 ”	217 (52.7)	62 (49.2)
	3 ”	65 (15.8)	23 (18.3)
	4 ”	13 (3.1)	4 (3.2)
祖父母の同居	祖母同居	77 (18.3)	34 (26.8)
	祖父同居	5 (1.2)	1 (0.8)
	無	338 (80.5)	92 (72.4)

3. 母親学級の資料からの分析

(1) 研究方法

「乳幼児をもつ母親のための学級」(以下、母親学級または学級と呼ぶ)に関する質問紙調査に伴って、各実施機関より送付された、パンフレット、テキスト類(保健所44部、教育委員会37部、計81部)の一部をもとに、主に実施・運営上の内容を、①保健所(保健センターを含む)を中心とするもの、②教育委員会が主催するもの、に大別して分析した。

(2) 結 果

(イ) 保健所による母親学級

現在、保健所で実施されている母親学級の一般的傾向として、妊娠、出産、育児など、母子保健に関する内容を中心に、講義の形式(他に実習・実技が含まれる場合もある)を主に、比較的短かい期間(平均して1~4回程度がほとんど)に開催されているケースが圧倒的に多くなっている。(大牟田、京都、名古屋の各市をはじめ他多数)

また、教材の一部として、映画(あるいは

VTR)、スライド、OHPといった、視聴覚機器を効果的に取り入れている学級も多くなっている(千歳市、盛岡市他)

この他、受講者同志の話し合いや、妊娠、出産に伴う親の不安や心配に対し、質疑応答、個別相談、指導の機会を設けてその解決を図っている学級もみられる(江別市、伊勢崎市他)

講師の構成では、保健所の場合、特に地域差はみられず、保健婦、助産婦、医師、歯科衛生士、栄養士がテーマ別に担当しているケースがほとんどで、後述する教育委員会主催の学級に比べ、固定的傾向の強いのが特徴となっている。

こうした全般的な傾向の中で、母子保健に関する基礎的な知識や技術の習得に加えて、母親学級の受講をひとつの契機に、地域の親同志のつながりと、その後の仲間づくりを図るためのグループワークの指導を進めている例もみられる。(盛岡市保健センター)

(ロ) 教育委員会(社会教育関係)による学級
保健所で実施される母親学級に比べ、教育委員会が主催する学級(名称も地域によって、家庭教育学級、乳幼児学級などさまざまである)は、乳幼児のしつけにはじまり、心身の発達、遊び、集団生活、親の役割など、主に出生後から就学前期にかけての子どもの全般的なテーマを幅広く取り扱っている場合がほとんどとなっている。学習形態は、講義の他に、話しあい、実技、見学などの方法が取り入れられていると同時に、VTRなどの視聴覚教材の導入も積極的に行なわれている。(横浜市金沢区、市川市他多数)

講師は、学習内容とのかかわりで、社会教育主事をはじめ、教員(大学、小学校、幼稚園など)、児童文学者、保健婦、保母、栄養士、教育相談員など、きわめて幅の広い人材で構成されているのが大きな特徴といえる。(座間市、市川市、広島県府中町、岡谷市他)

また、婚前から実際の子育てまでの期間を学習対象とした学級(長野県駒ヶ根市)や、個人および集団の各学習形態に加え、通信、巡回などの相談学習のシステムを導入しているケースもみられる。(埼玉県幸手町)

この他、釧路市教育委員会では、保健所をはじめ、児童相談所、保育所、幼稚園、医師会など、関連機関、団体の協力によって、子育てのための学習機会の拡充と、教育相談・助言体制の充実を図る、総合的なプロジェクトを設定し、未婚者を対象とする学級から小学校高学年をもつ親のための学級まで、一貫性のある学級運営を実施している。

以上のように、今日行なわれている各種の母親学級は、実施機関あるいは自治体によって、運営上の内容に差異がみられる。

今後は、こうした各地域における母親学級の実情を考慮しつつ、関係機関・施設との連携を図り、継続性のある学級運営を進めていくことが一層求められてくるものと思われる。

4-1 実験的試み

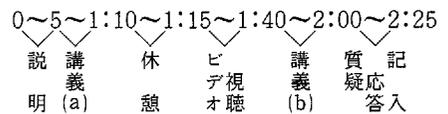
—母性を育む出産準備学級の例—

(1) 実験方法

- (イ) 対象者 23組の夫婦と妻のみ3名の、計49名
- (ロ) 実験場所 総合母子保健センター講義室
- (ハ) 実験日時 1回目 昭和60年12月20日(金)
18:00PM~20:30PM
2回目 昭和61年1月11日(土)
13:30PM~17:00PM
- (ニ) 実験法 実施方法をかえた2Grをつくる。

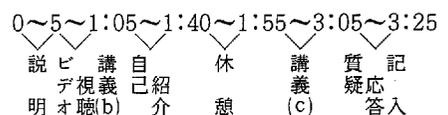
1Gr 講義が先で、視聴が後のGr.

S: 25名(12組の夫婦と妻のみ1名)



2Gr 視聴が先で、講義が後のGr.

S: 24名(11組の夫婦と妻のみ2名)



(ホ) 視聴・講義内容

視聴ビデオ 母と子のきずな

講義テーマ及び講師

(a)妊娠中及び産褥期の精神衛生

堀口貞夫

(b)母子相互作用

高橋悦二郎

(c)新しい家族のスタート

堀口貞夫

(他助産婦2名)

(ヘ) 評価アンケート

学級の最後に、以下のようなアンケートを行った。

A あなたにとって必要な或いは有益な知識や情報が得られましたか？

1. 得られた→どのようなことですか？
()

2. 既に知っていたのでつまらなかった

B テーマ・内容は、あなたの興味や関心を満足させましたか？

1. はい→どのようなことですか？
()

2. いいえ→その理由は？
()

C 理解しにくいことは、ありませんでしたか？

1. ない
2. ある→どのようなことですか？
()

D 講義方法（話の仕方・所要時間・教材など）はいかがでしたか？

1. 今日、受講した方法でよい
2. 工夫してほしい→アイデアをお聞かせください
()

(2) 結果

A あなたにとって必要な、或いは有益な知識や情報が得られましたか？

	1 Gr.	2 Gr.
得られた	17 (68%)	18 (75%)
つまらなかった	6 (24%)	3 (12.5%)
No. Ans.	2 (8%)	3 (12.5%)

B テーマ・内容は、あなたの興味や関心を満足させましたか？

はい	18 (72%)	19 (79%)
いいえ	2 (8%)	1 (4%)
No. Ans.	5 (20%)	4 (17%)

C 理解しにくいことは、ありませんでしたか？

ない	23 (92%)	20 (83%)
ある	1 (4%)	0 (0%)
No. Ans.	1 (4%)	4 (17%)

D 講義方法（話の仕方、所要時間、教材など）はいかがでしたか？

今日のでよい	13 (52%)	18 (75%)
工夫してほしい	4 (16%)	1 (4%)
No. Ans.	8 (32%)	5 (21%)

まとめ

①現代都市社会において、家族の形成期にある特に妊娠・出産をむかえている家族（クライアント）の多くは、コミュニケーションの輪が小さい。心配・不安などを解消するための情報の交換・収集に有効な手だてが持ちにくく、心理・精神的サポートなどが十分に受けられていない。問題解決の基盤が軟弱な現状に対し、医療・保健サイドはもとより他の部門と連携したケア・サービス・教育など心理・社会学的分野を含んだシステム化された出産教育の内容の検討が必要である。②これまで各機関で実施されてきた出産教育では、主な対象は妊婦であったが、夫を対象とすることはファミリーダイナミックスの観点からその意味が大きい。③出産を予定している家族の『出産教育』に対するニーズの多様化を把握し、プログラムのメニュー

化などを考慮しどのように応じることが社会的意義をもったケア・サービスなのか、今後検討することが重要である。④個人・集団教育の方法を勘案するにあたり、担当者は、グループダイナミックス、コミュニケーションスキル、リーダーシップトレーニングなどを体験的に習得し、展開できる諸能力の開発が重要である。

4-2 実験的試み

一 幼児をもつ母親を対象とした
学級の例一

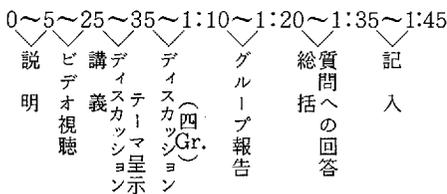
(1) 実験方法

- (イ) 対象者 2～3歳児をもつ親35名(内父親1人) 幼児は別室で保育
- (ロ) 実験場所 総合母子保健センター講義室
- (ハ) 実験日時 昭和61年1月18日(土)
10:40AM～3:30PM
- (ニ) 実験法 実施方法をかえた2Gr.をつくる。

1Gr. 視聴・講義 Gr. S:17名



2Gr. 視聴・ディスカッション Gr. S:18名



(ホ) 視聴・講義内容

視聴ビデオ 松田道雄編(育児の百科)
講義テーマ 幼児の心
講師 高橋種昭

(ヘ) 評価アンケート

学級の最後に、以下のようなアンケートを行った。

A あなたにとって必要な或いは有益な知識や情報が得られましたか?

1. 得られた→どのようなことですか?
()

2. 既に知っていたのでつまらなかった

B テーマ・内容は、あなたの興味や関心を満足させましたか?

1. はい→どのようなことですか?
()

2. いいえ→その理由は?
()

C 理解しにくいことは、ありませんでしたか?

- 1. ない
- 2. ある→どのようなことですか?
()

D 講義内容と実際のギャップを感じましたか?

- 1. 感じない
- 2. 感じた→どのようなことですか?
()

E 講義方法(話の仕方・所要時間・教材など)はいかがでしたか?

- 1. 今日、受講した方法でよい
- 2. 工夫してほしい→アイデアをお聞かせください
()

F その他、御意見・御希望がございましたらご自由にお書きください。

()

(2) 結果・考察

A あなたにとって必要な或いは有益な知識や情報が得られましたか?

	視聴、講義 Gr.	視聴、ディスカッション Gr.
得られた	15 (88.2%)	17 (94.4%)
つまらなかった	1 (5.8%)	0 (0%)
No. Ans.	1 (5.8%)	1 (5.6%)

B テーマ・内容は、あなたの興味や関心を満足させましたか？

	視聴, 講義 Gr.	視聴, ディスカッション Gr.
はい	12 (70.6%)	13 (72.2%)
いいえ	4 (23.5%)	5 (27.8%)
No. Ans.	1 (5.8%)	0 (0%)

C 理解しにくいことは、ありませんでしたか？

	視聴, 講義 Gr.	視聴, ディスカッション Gr.
ない	14 (82.4%)	14 (77.8%)
ある	2 (11.8%)	3 (16.7%)
No. Ans.	1 (5.8%)	1 (5.6%)

D 講義内容と実際とのギャップを感じましたか？

	視聴, 講義 Gr.	視聴, ディスカッション Gr.
感じない	11 (64.7%)	8 (44.4%)
感じた	4 (23.5%)	10 (55.6%)
No. Ans.	2 (11.6%)	0 (0%)

P < .01

E 講義方法（話の仕方・所要時間・教材など）はいかがでしたか？

	視聴, 講義 Gr.	視聴, ディスカッション Gr.
今日のでよい	12 (70.6%)	13 (72.2%)
工夫してほしい	4 (23.5%)	5 (27.8%)
No. Ans.	1 (5.8%)	0 (0%)

以上の結果からわかることは、Dの講義内容と実際のとギャップを、視聴・ディスカッション Gr.の方が、より感じたという差以外に、実施方法のちがいによる差は見出せなかった。ディスカッション Gr.が実際とのギャップを感じたのは、お互い身近な問題を話し合う過程で、ギャップを感じて来た為だと思われる。

次に、自由記述の箇所の中で、主な意見をいくつか取り上げてみる。

E 講義方法について

- 講義 Gr. ● 質問をしたい
● もう少し突っ込んだ話をききたい
- ディスカッション Gr. ● グループディスカッションがよい
● もう少し先生の話をして
● グループ分けは、子どもの年齢の

同じの方がよい。

F 意見, 希望

- 講義 Gr. ● 是非、このような企画を今後も
● 保育してもらって有難い
- ディスカッション Gr. ● 是非、このような企画を今後も
● 同じ悩みをもって話しあえるのがよい

5. 母親学級の手引書の作成

母親学級の内容については、繰返し述べるように、非常に多岐にわたっている。次に記した手引書は、今回われわれが三年間にわたって行ってきた、種々の研究調査結果に基づいて、作成されたものである。

心理, 栄養面の母親学級手引書内容

I. 妊婦の心理, 栄養

(1) 母性を育てる

- (イ)母性とは (ロ)母となる準備 (ハ)母親像
(ニ)人間としての成長 (ホ)仲間作り

(2) 妊娠・産褥の精神衛生

- (イ)妊娠・分娩への不安 (ロ)産褥精神障害
(ハ)マタニティブルー

(3) 妊婦の栄養

- (イ)望ましい食生活 (ロ)こんな時の食生活
(ハ)毎日の食生活をふりかえて
(ニ)情報過多の上手な処理
(ホ)妊婦食デモンストレーション

(4) 妊婦と家庭および社会

- (イ)家族の協力 (ロ)仕事に対する心構え
(ハ)職場の受入れ (ニ)保育所

II. 乳児 (0歳) の心理, 栄養

(1) 乳児の精神発達

- (イ)発達の理解 (ロ)運動の発達 (ハ)知覚認知の発達
(ニ)言語の発達 (ホ)情緒の発達
(ハ)社会性の発達 (ト)発達障害

(2) 乳児の生活指導

- (イ)生活リズムの確立 (ロ)遊びと玩具
(ハ)事故と安全

(3) 乳児の栄養

- (イ)乳汁期 (ロ)離乳期 (ハ)集団保育児の栄養と食事
(ニ)離乳食デモンストレーション

(4) 乳児と家庭および社会

- (イ)親子関係 (ロ)兄弟関係 (ハ)家族形態
- (ニ)乳児と保育 (ホ)地域の医療福祉サービス

(5) 乳児期の母子の精神衛生

- (イ)家族の協力 (ロ)問題児の発生と母親の精神衛生 (ハ)情報過多の上手な処理
- (ニ)母親同志の仲間作り

III. 幼児前期（1～3歳）の心理，栄養

(1) 幼児前期の精神発達（項目は乳児と同じ）

(2) 幼児前期の生活指導

- (イ)躰 (ロ)遊びと玩具及び本 (ハ)テレビのみせ方 (ニ)おけいこ事 (ホ)事故と安全

(3) 幼児前期の栄養

- (イ)食生活の特徴 (ロ)望ましい食生活 (ハ)食行動の発達と食事 (ニ)食事の躰 (ホ)この時期に起きる諸問題 (ヘ)集団保育児の食生活
- (ト)幼児食，おやつデモンストレーション

IV. 幼児後期（4～6歳）の心理，栄養

(1) 幼児後期の精神発達（項目は乳児と同じ）

(2) 幼児後期の生活指導

- (イ)基本的生活習慣の自立 (ロ)社会的規律の獲得 (ハ)遊びと玩具 (ニ)本の与え方 (ホ)テレビのみせ方 (ヘ)おけいこ事 (ト)事故と安全

(3) 幼児後期の栄養

- (イ)健康な体をつくる為に (ロ)望ましい食習

慣の確立 (ハ)食事を通して情緒豊かに

(ニ)集団生活と日常の食生活の関わり

(ホ)幼児食おやつデモンストレーション

V. 幼児全期（1～6歳）の心理，栄養

(1) 幼児期の家庭及び社会

(イ)親子関係 (ロ)兄弟関係 (ハ)友達づくり

(ニ)幼児と集団生活 (ホ)地域医療福祉サービス

(2) 幼児期の母子の精神衛生

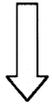
(イ)家族の役割 (ロ)情緒障害および問題行動

(ハ)問題児の発生と母親の精神衛生 (ニ)情報

過多の上手な処理 (ホ)母親同志の仲間作り

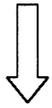
6. おわりに

妊産婦や乳幼児をもつ母親を対象にした母親学級のもつ意義が極めて大きなものである事は、今回の研究を通じても痛感させられた。それは単に母親の悩みや不安に応えるものだけでなく、次代を担う児童の健全育成の為に欠かせぬものである。その事は現在のわが国の社会情勢なり家庭の状況をみれば当然ともいえるが、残念ながらその要求に応える内容を備えた学級は現在では必ずしも多いものでない。今回の我々の研究は、その解決の一助ともなる事を願うものである。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1.はじめに

今年度の研究は、前々年から引続いて行ってきた、母親学級の指導方針に関する研究の、総括となるものである。前年までの研究は、全国で幅広く行なわれている、種々の母親学級の実態を明らかにする事を通じて、今後の母親のあるべき姿なり、内容について考察を加えたものであった。

今年度の研究は、調査を通じて得られた資料を、更にくわしく分析すると共に、実験的に異なるタイプの学級を開設し、その結果について検討を加え、母親学級の今後の在り方を考案し、母親学級の手引書の作成を試みたものである。

今年度の研究は、次の4つの種類のものからなっている。

その1.質問紙調査の分析

その2.資料分析

その3.実験的な試み

その4.母親学級の手引書の作成